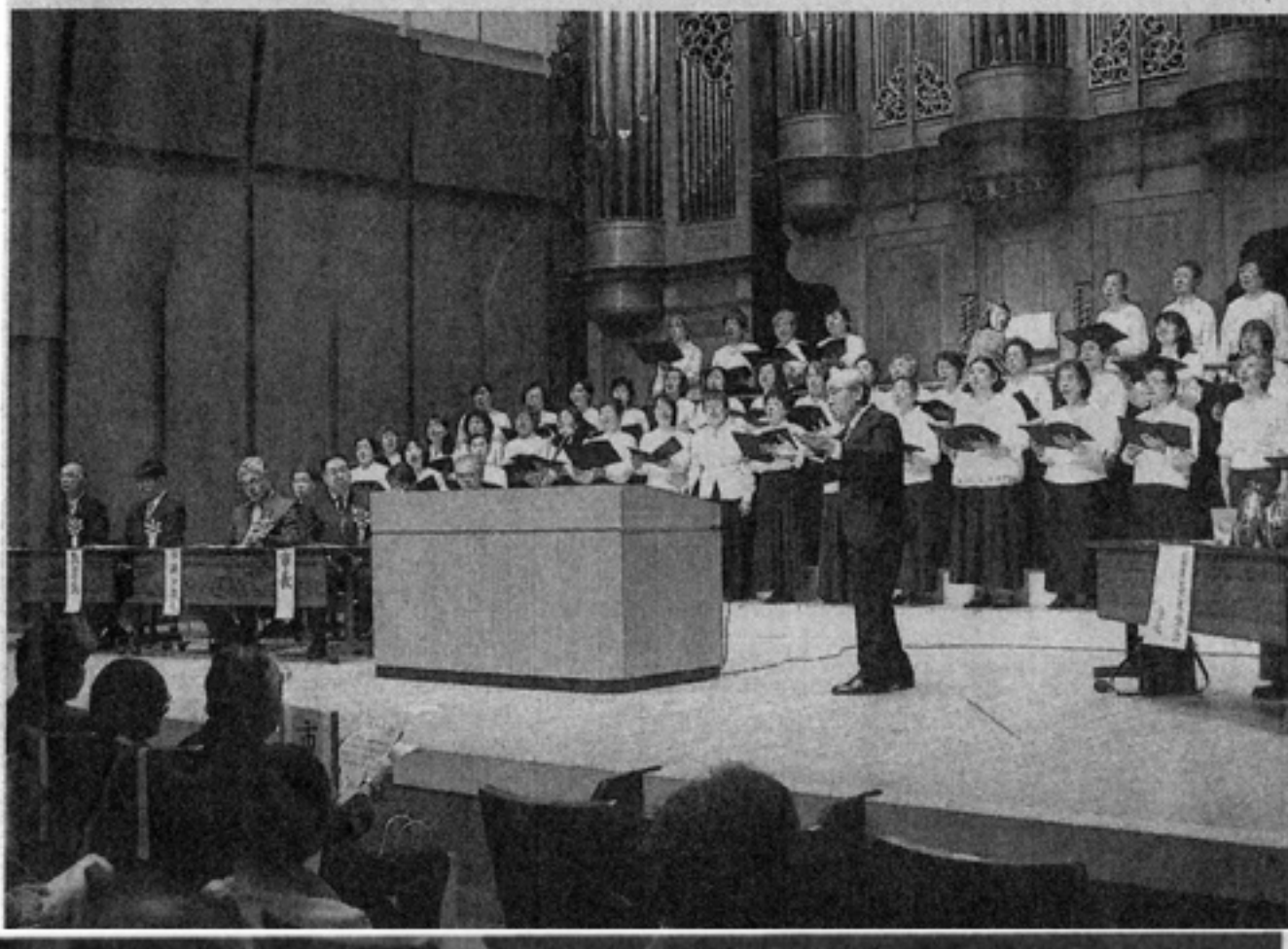


4～6月の
盛岡芸術祭

中止の無念になお精進



昨年行われた第48回盛岡芸術祭開会式の様子（2019年4月28日撮影）

乗り越え
ようろうろす

来年50回の節目に向けて

牛越恂協会
会長（87）

4月25日から盛岡市内の各会場で開催が予定されていた第48回盛岡芸術祭（盛岡芸術協会主催）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止された。開会式を同28日に行い、美術展7部門、舞台発表14部門が6月7日まで行われる予定だった。盛岡芸術祭の中止は初めて。来年は50回目の節目とあり、同協会の牛越恂会長（87）は「前年度の芸術祭後からみんな精進してくるものなので、落胆の思いはあると思う。できれば今年の中止になったエネルギーが来年爆発するようになりたい」と話す。

開催の方向で話し合いを進めていた矢先、徐々に首都圏などで新型コロナウイルスの感染が拡大。従来通りにはできないだろうと動向を注視しながら検討し、3月28日の理事会で中止を決定した。

判断するに当たり牛

越会長は、副会長で事務局長の鈴木宗基さんらと相談。「中学一年で終戦を迎え、早い時代から芸術協会に関わっているが、こんなことは初めて。鈴木さんはいろいろ情報を集めて方針を示す先見性の深い方で、今回も助けられた」と振り返る。

芸術祭の部門は合唱や茶道、管絃楽、作品展示など多岐にわたる。「3密に当てはまらないものもある。美術展などはあまり危険性はないとも感じるが、作品を審査や展示をする時に人との接触がかなり多いという。そういう事から中止した」



盛岡芸術協会の判断、今後の展望について語る牛越会長

牛越会長は若手高で音楽教師の生内義夫氏に学んで音楽の道に進み、大学で千葉一孝氏、鷹野洋一氏、新藤武氏に師事。30年勤めた岩手女子高をはじめ、長く合唱指導に携わった。「人生の中で出会った先生の影響で、合唱について学び、クラブ活動も指導して、なんとか今日までやってこられている。出会いは大切な感謝のしようがない」と音楽を通じた人生の学びを振り返る。「音楽は単なる芸術面ばかりでなく、音楽療法という面もある。大学で何年間か集

中して研究して、老人福祉施設と一緒に歌ったりもしている」とその可能性を追求し続ける。

牛越会長の指導する二つの合唱団は5月中旬の活動休止を決めるなど、文化芸術の各分野、また来年の具体的な計画をめぐって、

画はないが、ゆくゆくは理事会や総会を開いて意見を頂戴し、盛岡市とも相談して考えていきたい」と、来春を見据えた前向きな努力を誓う。

（相原礼以奈）